



創 立 1969年4月14日
 認 認 1969年4月23日
 チャーターナイト 1969年11月9日
 発 行 I T・広 報 委 員 会

Weekly Report 2022-2023

会長：遠藤直樹 / 幹事：鈴木雅博 / 会長エレクト：磯崎裕祐 / 副幹事：吉岡哲哉 / S.A.A：吉本委子

今週のプログラム 第2546回 2月17日

誕生日卓話：「ロータリートリビア」野口一臣会員
 担当者 プログラム委員会 例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム 第2545回 2月10日

客話：「地域と共に実現するファイブアローズ将来構想」(株)ファイブアローズ 代表取締役社長 藤田秀彰様
 担当者 プログラム委員会 例会場 JRホテルクレメント高松



遠藤会長挨拶

・ 皆さんこんにちは。本日は、香川ファイブアローズの藤田社長にお越し頂いております。後程お話しいただく予定ですのでお楽しみにして下さい。
 私はスポーツ観戦が好きです。下手なりに身体を動かすことも好きですが、子供が小学校から大学生までサッカーをしていたこともあり各年代の色々なスポーツに興味があり直接見に行ったりテレビで観戦することも大好きです。年末から年始にかけてもたくさんのスポーツ競技がございました。その中でも最近、近くの岡山の躍進がすごいです。全国高校サッカー選手権では岡山学芸館高校が優勝して、また駅伝では倉敷高校が優勝しました。またプロではサッカーのフジアーノ岡山がJ2の3位とあと少しで1部に上がれそうでした。
 香川県もサッカー、アイスホッケーなどプロチームが活動しておりますが、特にバスケットボールのファイブアローズが去年はあと一歩でB2からB1に上がるぐらいの戦いを見

せて下さり、各メディアでも沢山取り上げられておりました。今年もぜひ頑張って良い成績を残して香川をスポーツで盛り上げて頂きたいと思っております。

鈴木幹事報告

・ ローターリー手帳ご入用の方は事務局までお知らせください。

磯崎会長エレクトより

・ 来期のプロジェクトに向かってファイアーサイドミーティングを予定しております。日程のアンケートを回しますので多くの皆様の出席をお願いします。

水曜会・田中会員より

・ 3/21(火)、4/29(土) 鮎滝カントリーにてコンペがございます。
 4/2(日)に高松南RCより香川第一分区合同親睦ゴルフコンペ(鮎滝カントリー)のご案内がきております。

2月17日 今日は何の日	今日生まれの有名人
ノアの洪水の日/伊勢神宮祈年祭/雪の特異日	1975年 吉瀬美智子 1902年 白洲次郎
1904年 プッチーニの歌劇『蝶々夫人』がミラノで初演	1968年 舞の海 1872年 島崎藤村
1925年 ツタンカーメンの王墓が発見される	1944年 竹脇無我 1796年 シーボルト
誕生花 ジャスミン、花言葉は“官能的”	
誕生石 アメシスト(amethyst)、宝石言葉は“心の平和”	

我等の生業

我等の生業さまざまなかれど
 集いて凶る心は一つ
 求るところは平和親睦
 力るところは向上奉仕
 おおロータリアン 我等の集い

ニコニコBOX	
藤田社長、本日は客話ありがとうございました。	田中
早退	1件
合計 2 件	
本日 の 合 計	3,500 円
2022-2023 年 度 累 計	608,000 円

出席報告		出席委員長：大西一正	
会 員 数 /	42 名	出席規準数 /	40 名
出席者数 /	20 名	欠 席 者 数 /	20 名
出 席 率 /	50.00%	ビ ジ タ ー /	1 名
最終出席率 / 1月27日	47.37%	→	63.16%

ビジター
高松RC 松村 英幹 様

メイクアップ
2月7日 高松中央RC 近藤 岡田 藤田
2月9日 高松グリーンRC 遠藤 田中

加藤会員より

今日は、ロータリー情報委員会です。
 今月のガバナー月信にありましたP6地区だより①『ロータリーの叡智を「友」アーカイブで』の三宅徳三郎PGの「鏡の前のロータリアン」です。
 お目通し頂ければ幸いです。
 次回の例会は野口会員による「ロータリートリビア」です。
 お楽しみに！

鏡の前のロータリアン

第 367 地区ガバナー 三宅徳三郎
 (香川、愛媛、高知、徳島)

四国路の春は3月の声を聞くと水ぬるむ習しだが、それにもまして逸早く春を告げる風物詩は、萌える畦道を行く白装束のお遍路さんである。このお遍路さんのすげ笠を初め、持ち物すべてに「同行二人」とかかかっている。これはお大師さんと二人で八十八の札所を巡礼して今までの罪を懺悔して、新しい人生行路に出発したいためらしい。

私も二度目の勤めで、五十一カ処のクラブ巡りをする事になった。奉仕生活 37 年、大分アクも溜まったので洗い落とすには、格好の機会と考えた。私も「同行二人」で一人はお大師さんでなく、「鏡の前のロータリアン」である。それには次の因縁話がある。

1936 年伊太利国立連合病院のエリンコ・ジュッポーニ博士が、「鏡の前の外科医」という一種の「思い出の記」ともいべき名著を発刊した。この題名「鏡の前の外科医」はその一節「鏡一言葉なき批判者」が極めて印象的で感激を覚えるので命名されたい。

どこの病院でも手術室に入る前に消毒室がある。その消毒室の壁には大きな鏡が取り付けられている。医師は手術室に入る前にここで手洗いをし、手の消毒をするのである、鏡の前に立った外科医は、敏速に、正確に消毒しながら鏡の中に写し出された自分の眼に問いかけるのである。今から行わんとする手術は人道に反してはいないか、良心にもとらないか、己の全能力を発揮できるかを確かめて後、静かに手術室に入る。

手術が終り最後の縫合が行われると元の消毒室に戻り、手術衣と手袋を脱ぎマスクをはずしてからまた鏡の前に立つ。何故鏡の前に立つのであろうか？身嗜みをするためであらうか？
 そうではない。

この動作は永年に亘って習慣づけられ、教えられたものである。すなわち外科医は今行ってきた手術の批判を、鏡の中の自分の目に見るのである。鏡の中の目から、手術は正しく行われたか、全力を発揮できたか、すべて良心的に行われたかと反省するのである。エリンコ・ジュッポーニはここで次の言葉を書き加えている。

「鏡は一瞬間に総てを表す、鏡は冷たく、隠蔽することを知らない」と、

私は外科医として鏡の前のそれでありたいと同様、鏡の前のロータリアンでありたいと念願してすでに 30 有余年、自分独りの理想として誰にも話さず胸に収めて来たのだが、13 年前地区ガバナーとなり、今回また二度目の勤めをするに当たって、今度の巡礼も含めて機会あるごとに同志に語ったのは、一人でも多くの「鏡の前のロータリアン」の出現を祈念して止まないからである。

facebook

facebook でたくさんの写真を公開
 していますのでぜひご覧ください。

<http://www.facebook.com/TakamatsuWestRC>



次週のプログラム		第 2547 回	2 月 24 日
卓話：職業奉仕委員会			
担当者	職業奉仕委員会	例会場	JRホテルクレメント高松